opusdei.org

年間第12週日曜 日・A年97恐れな しに生きる

一日常生活における勇気。一私たちの強さは、神の子であることの自覚に基づく。一

あることの自覚に基づく。一大きな試練と日常生活の小さなことにおける大胆さと神への信頼。

2024/04/28

年間第12週日曜日·A年

97恐れなしに生きる

- 一 日常生活における勇気
- 私たちの強さは、神の子であることの自覚に基づく。
- 一大きな試練と日常生活の小さなことにおける大胆さと神への信頼。

97.1日常生活における勇気

今日のミサの福音 1 で、主は、神の 子として恐れずに生きるように教え ています。私たちは、時々、生活が もたらす苦難に悩んだり、圧倒され たりしている人々に出会うことがあ ります。逆境とか障害はそれを克服 しようとただ人間的な手段にだけ 頼っていたら、ますます大きなもの に見えるだけです。神についてはっ きりと話し、嘘、偽りに対しはNO と言い、必要な時はキリストの忠実 な弟子であることを表明するのを恥 じる人々に度々出会います。人の噂 や批判的な意見などに抵抗して流れ に逆らうこと、人の注意を引くこと

を恐れています。異教的な習慣・道徳の中で、あるいは、経済的価値が最高の価値であるような環境の中で、キリスト者が注意を引かないでいることができるでしょうか?

イエスは、起こりうる中傷や批判に

ついて心配しないようにと教えてい ます。「人々を恐れるな、今、覆わ れているもので、あらわにされない ものはなく、今、隠されているもの で、知らされないものはないからし と。神が私たちに委ねられた真理を 世界の隅々まで言い広めるのを恐れ ているとしたら、何と恥ずかしいこ とでしょう! わたしが暗闇で言うこ とを、明るみで言いなさい。耳打ち されたことを、人々に言い広めなさ い。時には、決して恐れや臆病から ではなく、紹自然的腎慮や愛徳の面 から見て、沈黙が最良の手段である という理由で、沈黙を保つこともあ ります。私たちキリスト者は、隅っ こや闇を好みません。光を愛し、生

き方と言葉において率直であります。私たちで生ます。私たり宣言を思って真理をはったり宣言をある。 このは、真理をすると思って真理をする。 でありったのである。 でありったでは、はいるのでである。 であるでは、はいまれれがでいる。 では、はいまれれがでは、はいいのでは、は、はいいでは、はいいでは、はいいではないです。 にはいる。 でいる。 でい。 でいる。 でい。

をもって勇敢に生きるなら、主がい つでも豊かに報いてくださいます。

聖パウロは、「現在の苦しみは、将 来わたしたちに現されるはずの栄光 に比べると、取るに足りないとわた しは思います | ²と述べています。 聖チプリアヌスは次のように評して います。「このような素晴らしい栄 光に達するため、神の朋友になるた め、直ちにキリストを所有するため に、誰が、この世の苦しみと責め苦 の後に、神の報いを受けるための努 力をしないでいるでしょうか? この 世の兵十にとって、敵を卑しめた 後、家に帰るのが名誉であれば、悪 魔を打ち負かして勝ち誇って天国に 戻ることは、どれほどの栄誉と賞賛 になることでしょう。つまり、勝利 のしるしを高く掲げること、キリス トが裁きに来られる時、神の傍に座 ること、キリストの共同相続人であ ること、天使、太祖、使徒、預言者

と並ぶこと、天の王国を所有して喜 ぶことは」³。

97. 2 私たちの強さは神の子の自 覚に基づいています

「生を恐れず、死も恐れない」⁴。 落ち着いて病気に耐え、未来がはっ きりしないにもかかわらず、常に穏 やかなままで、喜んでしっかりと重 大な困難に向き合い、努力、犠牲を 要求する障害に立ち向かう。それ が、神が望まれる私たちの生き方で す。特に、心配事、懸念、暗闇に襲 われる時、神の子であることを、 日々、度々思い出しさえすればその ようにできます。2羽の雀でもそれ ほど安くは売られていないのではな いでしょうか。神のみ旨がなければ その1羽さえ地に落ちることはない でしょう。あなたの髪の毛さえ神は すべて数えておられるのだから、恐 れることはない。あなたは雀より もっと価値があるのです。

神は私たちに対する大きな愛と人類の偉大な値打ちを明らかになってない。聖ヒエロニムスは、ミサの面であるこの一節を評してこう記してのます。「2羽の雀は食い物であるける。その1羽も、神の意志がなけらに落ちないだろう。それながらいたろう。なたがありまりの愛を示されないことがありたりの愛を示されない」 $\frac{5}{2}$ 。

広がっているのがわかる時、そう繰り返し言うことができます。「主はわたしの光、わたしの救い、わたしは誰を恐れよう」⁷。

普通の市民であるキリスト者が様々 な商売や専門職に従事している異教 の世界、その世界から来る大きな困 難の最中にいながら、使徒聖ヨハネ は宣言しています。「神から生まれ た人は皆、世に打ち勝つからです。 世に打ち勝つ勝利、それはわたした ちの信仰です」⁸と。そして、ゆる ぎない信仰というしっかりとした基 礎があれば、虚栄心や無邪気さでは ない確信、つまり、私たちの個人的 な惨めさや限界にもかかわらず、キ リストが十字架の死によって勝利と 栄光の復活を勝ち得てくださったた ことを知っているキリスト者として の喜びある確信を持つことができる のです。神はわたしの光、わたしの 救い、わたしは誰を恐れよう。ただ

主のみ、あなただけがわたしの命を 守ってくださる方です!

97.3日常生活の大きな試練と小さな事における勇気と神への信頼

イエスは、神との友情を壊し永遠の 破滅に導く罪以外は、何も恐れない ようにと私たちを励まされていま す。困難を前にして、神の真の子ど もらしく、強くて勇敢でなければな りません。主は、私たちに、身体を 殺しても霊魂を滅ぼすことのできな い者を恐れるな、むしろ、身体と霊 魂の両方を地獄で滅ぼすことのでき る方を恐れなさいと教えられます。 この神に対する畏れは、聖霊の賜物 です。それは、罪と、神から引き離 すすべてのものと、もっときっぱり と戦うのを助けてくださいます。そ れは、私たちが粘土でできた足を持 ち、脆く壊れやすいことを常に思い 出させ、自分に信頼を置かないこ と、罪の機会を避けるように促して

くださるのです。身体的な悪は、死 そのものでさえ、霊魂の悪、つまり 罪に比べれば、無に等しいと言えま す。

私たちは、神を失う恐れ以外の何も 心配すべきの心配でありません。りません。りません。りません。りません。りません。りいであるであり、一点ないないないないないないないないないないないないないないないないない。「からないないないないないないないないないないない。」。」でしょう。 私たちは、神を失う恐れば、長くは、大きないないである。「からないないないである」であるでは、ないないである。「からないないないないないないないないないない。」。 なたにこう言われるでしょう。

パウロを助けた神は、私たちにも心をかけてくださいます。このような時、私たちは謙遜に、信仰を持って神に願います。「あなたに全幅の信頼を置いていますが、主よ、あなたは私を信用なさらないでくださいと、謙遜で強い信仰の心から弛まず

主の助けを乞い求めなければならな いことが理解できます。決して私た ちを見捨てないキリスト・イエス が、優しく見つめ、理解し、愛して くださっていることを心に感じるよ うになれば、使徒の言葉の深い意味 が理解できるのではないでしょう か。『わたしの恵みはあなたに十分 である。力は弱さの中でこそ十分に 発揮されるのだ』(2コリント12・ 9) と言われました。 だから、キリ ストの力がわたしの内に宿るよう に、むしろ大いに喜んで自分の弱さ を誇りましょう。たとえ芥の如き身 ではあっても、というよりは、惨め なところがたくさんあるからこそか えって、主を信じ、父なる神に対す る忠実を保つことができるのです。 神の力が発揮され、弱さに圧倒され んばかりの私たちを支えてください ますから」¹⁰。

けれども、普通、小さなことにおい て、強く勇敢でなければならないで

しょう。良いキリスト者であれば、 居心地が悪いと思う場所やショーへ の招きは礼儀正しく、しかしきちん と断る事、教師が子どもたちに与え る教育内容について意見を述べなけ ればならない時、話題が怪しげな方 向に移りそうな会話を止めなければ ならない時、信仰に関する話に友人 を招く機会を見つけ、告解を勧める にあたり思いやりがありタイムリー な助言を提供し、会話が清さに反す る方向に進みそうな時、話を遮るこ となどです。いずれも頻繁に、広い 展望につながる使徒職を、妨げたり 阻止したりする〈小さな臆病〉で す。ところで、生き方を効果的で値 打あるものにするのは、〈小さな勇 気〉なのです。

「十字架の辱(はずかし)めのとき、 聖母はそこ、御子の傍で、御子と同 じ運命を甘受する覚悟をしておいで になる。あなたの周囲の雰囲気がた とえ好意的でないとしても、責任あ るキリスト者として生きるため、恐れを捨てようではないか。聖母は必ず助けてくださる」 $\frac{11}{2}$ 。

¹ マタイ10:26-33

² □-マ8:18

³ 聖シプリアーニ,Letter to Fortunatus, 1 3

⁴ 聖ホセマリア・エスクリバー, 『神の朋友』, 132

⁵ 聖ジェローム, Commentary on St Matthew's Gospel, 10:29-3 1

⁶ エレミヤ,20:10-13 参照

⁷ 詩編27:1

^{8 1}ヨハネ5:4

^{9 2}コリント12:9

¹⁰ 聖ホセマリア・エスクリバー, 『神の朋友』, 194

¹¹ 聖ホセマリア・エスクリバー,
『拓』, 977

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/TO-XII-nichi-A/ (2025/12/15)